

# 向陽小だより

相模原市立向陽小学校  
学校だより R8.6.1

6月号



<http://www.sagamihara-koyo-e.ed.jp/>

## 梅雨時に「読書」はいかがですか？

学校長 水野 正人

新年度がスタートして早2か月。校庭の木々の緑も一段と深まり、間もなく梅雨入りの季節を迎えます。新しい環境の中で緊張しながらも全力で走り抜けてきた子どもたちも、今では学校生活のペースを掴み、毎日たくさんの笑顔を見せてくれるようになりました。

さて、雨の日が増えると外で思い切り体を動かさなくなりますが、見方を変えれば、じっくりと腰を落ち着けて何かに取り組む絶好のチャンスでもあります。そこで今回は、雨の日にぴったりの「読書」について考えてみたいと思います。

昨今、スマートフォンや動画の普及により子どもの「読書離れ」が心配されています。昨年の全国調査データを見ると、小学生が1か月に読む本の平均は「12.1冊」で、前年から減少に転じたことが分かりました。中・高校生になるとさらに読書量は減り、活字離れが進むという現状もあります。だからこそ、小学生の今の時期から「本を開く習慣」を根づかせておくことが大切です。読書によって培われる読解力や豊かな想像力は、すべての教科学習の土台となります。

子どもを読書好きにするために、「リビングに本を置いてみる」「保護者が読書している姿を見せる」といった小さな一歩から始めてみませんか。例えば、保護者の皆様がこれまでに読んで心に残っている本や、子どもの頃に大好きだった本を一冊プレゼントして、一緒に読んでみるのもおすすめです。

「本を読みなさい」という言葉よりも、同じ物語を共有する喜びが、子どもにとって一番の刺激になります。ちなみに、私は小学生の頃、エルマーの冒険や江戸川乱歩の名探偵・明智小五郎シリーズにはまりました。

学校でも、雨の日が楽しくなるような本の紹介や工夫をしてまいります。～雨粒が窓を叩く静かな音を聞きながら、温かい雰囲気の中で一緒にページをめくる～そんな時間が、それぞれの家庭で流れることを願っています。今月もどうぞよろしく願いいたします。

